



境界あれこれ

11

～ 恋心と恋人DV・コントロールの境界 ～

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸由里子

はじめに

最近、中高生の恋人関係が心配になってきた。

まず、知り合うのがネットというケースが増えていること。面談で「彼氏できた！」と嬉しそうに報告してくれる子に、「良かったねえ。同じ学校の子？」と聞くと、「いや、こっちの子じゃない」という。「どこの子？」と聞くと「〇〇県〇〇市」とはるか遠い地名を言う。

そしてしばらくして、「彼氏どうしている？」と聞くと「えっ？どの彼？」「〇〇県の。」「もう別れた！今××県の子と付き合っている。」と。付き合っているのかどうかも定かではないが、時々、彼氏が逢いに来るとか、逢いに行くとかという話も聞く。「危ないんじゃない？」と言っても聞く耳持たずで、そういう時は学校の先生に伝え、保護者に連絡を取ってもらう。

ある時、自殺願望の中学生の女の子が、同じ方

法で、成人男性と知り合い、一緒に死のうという話になったこともあった。幸い事なきを得たが、危険極まりない時代である。

そんな中で、恋人によるDVの話があった。そこで今回は、恋人同士の恋心とDVによるコントロールの境界について考えてみようと思う。

<あばたもえくぼの恋心>

人を好きになると、その相手の何もかもが愛おしくなるだろう。彼氏に好かれようと、彼氏の望むとおりにしようとする。長い髪が好きだと聞けば、髪を伸ばし、短い髪が良いと言えは髪を切る。

ひらひらの服は嫌いだと言えは、ボーイッシュな服装にし、赤が好きだとすれば赤い服ばかりを着るようになる。食べものの好みも、彼氏の望むようにしようとする。

大黒摩季作詞作曲の歌に「あなただけみつめてる」というのがある。その歌詞が正に恋心で縛られる女の子の姿である。「あなたがそう 喜ぶから 化粧をまず止めたわ 何処にいても捕まるようにポケベル持ったわ・・・あなたさえそばにいれば 他に何もいらぬ・・・あなたがそう 望むから まっすぐ帰るようになった ザツだった言葉使い丁寧になった・・・あなただけみつめてる 昔みたいに笑わなくなった・・・そしてほかに誰もいなくなった 地味に生きていくの あなた好みの女・・・あなたの微笑はバラ色の鎖 行け 夢見る夢無し女！！・・・」という歌詞である。

恋は盲目、恋の病、恋患い、等々恋に関わる言葉は沢山ある。相手がどのような人でも、好きになってしまったら、誰の忠告も入らない。反対されればされるほど、相手を思う気持ちが強くなる。ロミオとジュリエットではないが、無理心中になってしまうことさえある。

恋心ゆえに、相手に合わせ、相手の言うとおりにしようというのは、マインドコントロールとどう違うのかと思うときがある。

<マインドコントロールと洗脳>

マインドコントロールと似た言葉に洗脳と言うのがある。

洗脳とは・・・個人の思想や価値観を、物理的、社会的圧力を加えるなどの操作によって必ずしも本人の欲しない方向へ急速かつ大幅に改変させること。共産主義国家などで行われた強制的な思想改造が知られる。感覚遮断や賞罰の操作などの反復による学習の一つといえるが、その効果は永続的でない場合が多いといわれる。(ブリタニカ国際大百科事典)

マインドコントロールとは・・・他人の心理状態や態度を支配すること(大辞林)。暴力的な手段は一切使わず、あたかも操られている本人の意思

で言動が左右されているかのように見せることができる。そのため、洗脳に比べて、マインドコントロールされている本人、そして周囲がその事実気が付きにくいといった特徴がある。従って、その状態から抜け出させることも中々難しい。マインドコントロールという言葉が一般に知られるようになったのは、新興宗教やカルト集団などの信者の問題からであった。

<恋人DVのコントロール>

さて、DVを考えてみよう。DV被害者は、暴力を振るわれることで恐怖を感じる。痛い思いもする。もしかしたら殺されるのではという思いになる。然しDVでは、加害者は、暴力をふるった後、とても優しくなる事が多い。心から詫びたり、涙を流して詫びたりする。そんな姿に、被害者は、「きっと自分が悪かったからだ、この人は悪くない」と思ってしまう。「自分が気をつけて、彼を怒らせないようにすれば、ずっと優しいままでいてくれる」と思ってしまう。

暴力というのは、虐待でも同じだが、一度振るってしまうと二度目、三度目と繰り返され、その度に、力加減も増加し、悪化していくものである。

一度目は、頬をはたいたぐらいだったのが、段々パーからグーになり、首を絞めたり、物で殴ったり蹴ったりと、エスカレートしていく。DV被害者に何人か面談をしたことがあるが、例えば女性援助センターなどに苦勞して逃げたとしても、再び加害者のもとに戻ってしまったりする。加害者の良いところだけに目が行き、謝ってやり直そうと言ってくれているからと戻る。しかし、あっという間に元通りになるのが殆どである。

ある高校生の恋人DVケースでは、お互いに好きで、二人の世界を大事にしていた。暴力を何度振るわれても、被害者の方は加害者から離れたいとは思っていなかった。DVが発覚し、周りが

二人を引き離しても、被害者は、加害者との再会を夢見ていた。一方加害者側は、なぜ被害者を殴るのかについて、二人の間で揉めて雰囲気が悪くなった時に、リセットしたいからと言っていた。「リセット」というのは、まるでゲームが上手いからリセットボタンを押すようなものである。その場を自分の思い通りにしようとしているのだ。

もしかすると、最近の DV 加害者にはこういう感覚があるのかもしれない。ゲーム依存も多いのだから、リセット感覚があってもおかしくない。こうしてみると、恋人 DV のコントロールは、暴力が介在することから、マインドコントロールと洗脳の間のようなイメージである。暴力だけであれば、洗脳であるが、恋人 DV のコントロールでは暴力だけではなく、本人の意志で行動していると思われるケースがあるから、「間」と考えられる。

普通に恋心をもって、自らの意志で、相手好みが変わっていくことは、特にコントロールともいえないのかもしれない。しかし、一度暴力が介在し、暴力と謝罪・やさしさが交互に与えられるとすれば、それはもう DV のコントロールに入ってしまう。となると、境界は、暴力があるかどうかと考えられなくもない。

恋心で夢中になっている時期が一番危険と言えそうである。最近では女性だけが被害者になるわけではなく、逆に男性が被害者になる場合もある。子どもの頃から、CAP など、暴力防止プログラムを受けさせて行くことで、どんなに好かれていても、暴力はだめという教育をしていかねばならない。それだけではなく、人を愛すること、愛されることがどんなことなのかということも伝えて行かねばならない。

相手を愛するということは支配することではなく、相手を思いやり、大切に思うことである。そして、愛されるということは、相手の思い通りになることではなく、自分自身を大切にしながらも、相手を大切にしていくことである。

人と人との生の関係性が薄くなってきている今、人のぬくもりをシッカリと経験してこることも、こうした恋人同士の関係性に少なからず影響を与えるのではと思う。小さい時から、人のぬくもりを感じ、愛されて育つことは大事だ。そして、人が人の中で生きていくということは、恋人をもつことであろうが、自分の子どもを育てることであろうが、我慢することが多くあり、全てが自分の思い通りになることは無い。万能感を持ちたい、全てを思い通りにしたい、征服したいという願望は、もしかしたら誰にでもあるのかもしれない。それをそのまま実行に移さないのは、我々人間がその感情をコントロールする前頭葉を持っているからだろう。恋人たちが、暴力支配に苦しむことの無いよう、小さいうちから自らの無謀な欲望を抑制する力をつけられるようお願いしたい。

参考：

恋人 DV(デート DV)・・・交際相手から受ける暴力のこと。殴る蹴る、性行為を強要と言った身体的な暴力だけでなく、交友関係を制限したり、通話やメールのチェックをしたりなど、精神的な暴力や経済的な締め付け、搾取などがある。2016 年の NPO 法人などが実施したアンケート調査では、10 代から 20 代の女性回答者の約 45%、同年代の男性回答者の約 27%が被害を受けたと回答した。(智恵蔵 mini)